

2011 年度まちづくり大学院演習

『都市デザイン演習：神楽坂、次の一手』

都市デザイン研究室

担当：西村幸夫教授／窪田亜矢准教授／岡本祐輝協力研究員／神原康介 D1 前半／松井大輔 D3 後半

前半：5. 7, 5/14, 5/21

後半：7. 30, 8/6, 8/13

1. 演習の目的

前半：まちづくりビジョンの構想

現状分析と課題をふまえて、神楽坂におけるまちづくりの明確なビジョンを構想し、その実現のために、神楽坂という地域がなすべき、次の一手を具体的に提案する。

後半：近代建築物の活用提案

神楽坂にある和可菜旅館は、昭和 20 年代終わりから営業をはじめ、地域の特性であった出版、飲食の充実という状況をふまえて、脚本家や映画監督が缶詰になって作品を仕上げる本書き旅館として活躍してきた。近年では客数の低下や女将の高齢化などにより、今後の継続の仕組み、もしくは、新たな活用のあり方が模索される。登録文化財への調査も済んだ。

近代和風の建築物の今後について、前半で検討した神楽坂のまちづくりビジョンに貢献する、有効な方策を提案する。和可菜旅館に自由に立ち入ることは難しいので、コンテンツが中心の提案となるが、十分に展開できるかどうかは図面上で確認する。

2. 対象地の特徴と課題

東京都心部に位置する神楽坂（東京都新宿区）は、文化や歴史を感じさせる要素を多く継承している。住環境として人気があり、きわめて高い開発圧力の影響を受けているだけでなく、都市観光の重要な目的地ともなっている。

また、古くからの地域住民や店主、新たな居住者、ファン、新宿区などを含む非常に多様な人々が、多様な方法で参加／参画しているまちづくりも実践さ

れている。

戦災で壊滅的な被害を受け、歴史的な建築物はきわめて限られている。それでも地域の NPO の方々を中心に、戦後すぐに建てられた建築物の調査も行われており、歴史的価値が発見されつつある。登録文化財も生まれている。

前半 ::

こうした神楽坂が抱えている課題として、以下に三つを列挙する。これらは関連しているものではあるが、いずれか一つを選び、ビジョンと具体的な方策を提案する。

(1) 多様な歴史の集積

神楽坂は、江戸城外濠沿いの立地により有力な藩邸等が立地していた江戸期、文人が集まってきた明治期、花街として名を轟かせた大正期、などそれぞれの時代に特徴のある界限であり続けた。

このように、特定の一時代だけの要素を凍結的に保存するのではなく、歴史の積層に魅力や価値を見いだすような傾向は、文化財保存をめぐる世界的な議論においても見られる。

それでは神楽坂において、適切な積層を実現するためには、どのようなビジョンと具体的な方策が必要なのだろうか？

(2) 持続可能な都市観光

2000年の超高層マンション紛争において路地の重要性を中心とした神楽坂の魅力が広く再認識されるようになり、テレビドラマの舞台として採り上げられるなどしてからは、急速に、多くの観光客や飲み屋目当ての客で、平日夜や週末も大変にぎわうようになっている。地域の歴史に詳しい観光ボランティアガイドも機能している。

しかし、こうした状況は地域にとって必ずしも良いことだけでもない。静かな住環境への弊害も生じているし、路地網での派手なネオンが問題になったこともある。神楽坂の魅力が、ひとときのブームとして捉えられてしまう可能性もある。

飲食だけに終始しない、神楽坂ならではの魅力をどのように創造し、発信し、維持していけるのか、持続可能な都市観光を実現する観光設計が求められてい

る。物的環境とマネジメントの両面における提案が望ましい。

(3) 路地保全のための新たな制度と仕組み

神楽坂を語る際に、路地は重要なキーワードである。料亭街であることと、路地であることには密接なつながりがあった。路地境界の特性を継承するための地区計画、神楽坂三・四・五丁目地区地区計画も定められている。

また近年では路地の魅力が社会的にも広く受け入れられるようになってきた。三項道路指定などの手法への道も開かれてきた。

しかし、建築基準法にならい、路地は4mへ拡張されることが原則である。

もしも、神楽坂において、現状の路地を保全するのであれば、どのような課題があり、それらはどのように解決されるのであろうか。そもそも神楽坂の路地の魅力とは何か？どの路地が大切なのか、路地網であることが重要なのか。

現行の都市計画法制の具体的な改善案も提案したい。

後半：：：

路地網の真ん中に位置し、戦後の近代和風建築物である和可菜旅館を活用することは、上記の三つのテーマにも深く関連する（たとえば、1）これまでの歴史を蓄積するための方法論（ex. 新たな利用方法を考えるときの原則、守るべき修理のルール）、2）新たな観光スタイルに貢献するあり方（ex. 外国人観光客の受け容れ、観光インフォメーションの設置やその仕組み）、3）和可菜旅館が立地している路地網周辺の新・地区計画の策定など）。

前半で構想したまちづくりビジョンをふまえつつ、和可菜旅館の新たな利用とそれを支える仕組みについて、具体的に提案する。特に、神楽坂のまちにとってどのような貢献となるのか、検討する。

3. 課題のスケジュール

前半：：

第一回：5/7@802 会議室

1. 演習内容の把握
2. 神楽坂地域についての概要把握

3. グループ分け（課題の関心により、3グループ想定）

4. 現地見学（グループ毎）

第二回：5/14@802 会議室

5. ビジョンの構想検討

テーマをめぐる状況の知見も深め、まちづくりビジョンを検討する。

第三回：5/21@802 会議室

6. まちづくりビジョン提案発表（グループ毎）

神楽坂の地元の方々にもクリティークをお願いする予定。

後半：：

第四回：7/30@802 会議室

7. シンポジウム「都市部の近現代建築の保存と建築・都市関連法制度の課題」

上記シンポジウムに出席し、近現代建築の保存をめぐる課題を学ぶ。

第五回：8/6@802 会議室

8. 和可菜旅館活用提案検討

単体の保存設計ではなく、神楽坂のまちにとって有効な活用提案とする。

保存や利活用の障壁になっている場合には法制度の改善案も検討する。

言葉ではなくダイアグラムや図面、スケッチ等を多用する。

第六回：8/13@802 会議室

9. 活用提案発表（グループ毎）

10. 成果物提出

発表後にグループで総括した A4 一枚と、パワポファイルを提出して終了。

以 上